

1 調査経過

今回の調査は、興福寺西室と北円堂院を対象とした。

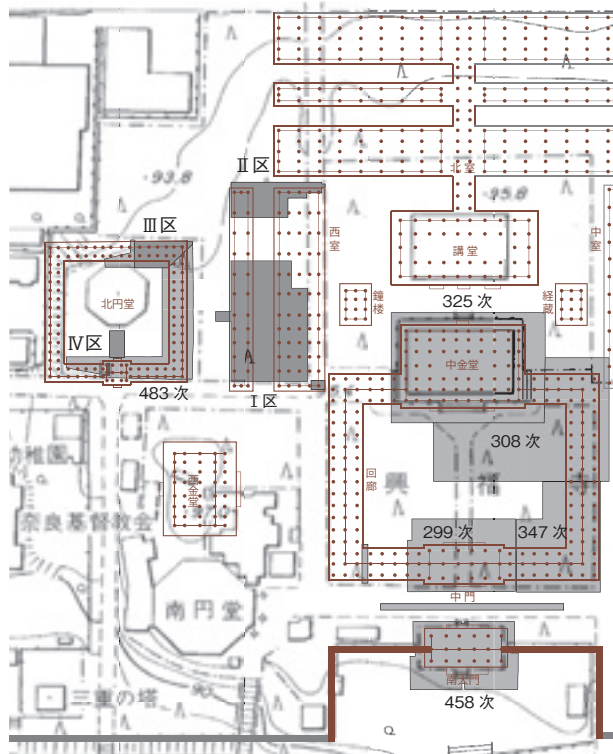
興福寺では「興福寺境内整備基本構想」（1998年）に基づき、寺観の復元・整備を進めている。この整備事業にともない、奈良文化財研究所（以下、奈文研）では、1998 年以来、中金堂院、南大門、北円堂院等の発掘調査を継続しておこなっている。この事業の一環として、2013・2014年度には西室（西僧房）および北円堂院において2度の調査を実施した。本報告は、これらの概要報告である。

発掘調査以前の西室跡には、大房のものと推定される建物の礎石が一部露出していた。2013年度調査では、西室の南半部を対象とした。調査の過程で、北円堂院との間の遺構の様相を確認するために西に拡張区を、西室基壇の東南隅の様相を確認するため東に拡張区を設けた。調査面積は計985㎡である。調査は2013 年 6 月 3 日に開始し10月9日に終了した。本書ではこの調査区をⅠ区とする。調査では、西室大房の建物や基壇の規模にかかわる情報を得たほか、大房の西に隣接する掘立柱建物の存在が明らかとなった。

2014年度の調査は、調査区を3つに分けて実施した（第1図）。本書では、これらをⅡ、Ⅲ、Ⅳ区とする。Ⅱ区は西室北辺部、Ⅲ区は北円堂院北面回廊の一部、そしてⅣ区は北円堂院南面内庭部である。Ⅱ区では、2013年度調査をふまえて、西室の桁行規模の確定を目的とした。北円堂院では、2011年度調査（平成第483次）の補足調査をおこなった。Ⅲ区は北面回廊未調査部分の様相把握、Ⅳ区は北円堂前面の燈籠や参道の痕跡の有無の確認を調査目的とした。調査面積は、Ⅱ区が269㎡、Ⅲ区が138㎡、Ⅳ区が44㎡である。調査は2014年9月29日に開始し2015年1月16日に終了した。Ⅱ区の調査では、西室大房の桁行（南北）の基壇規模が確定し、Ⅰ区で検出した掘立柱建物の北端も確認した。Ⅲ区では、2011年度の調査成果を追認し、Ⅳ区では、内庭部での燈籠の存在が明らかとなった。（芝康次郎）

第1表 調査経過

2013年	
6月3日	Ⅰ区、重機掘削開始。（～6月24日）
6月22日	Ⅰ区、遺構検出開始。
8月1日	Ⅰ区、西拡張区重機掘削。
8月23日	Ⅰ区、ハイライターによる全景写真・地上写真撮影
8月28日	Ⅰ区、クレーン垂直写真撮影。実測作業開始。
9月4日	Ⅰ区、断割調査開始。
9月11日	現場検討会。
9月26日	記者発表。
9月28日	現地見学会（855人の参加をみる）
10月8日	現場検討会
10月9日	Ⅰ区、砂撤き。撤収。
2014年	
9月29日	Ⅱ区、重機掘削開始。（～9月30日）
10月1日	Ⅲ区、重機掘削開始。（～10月7日）
10月2日	Ⅲ区、北面回廊地覆石を再検出。
10月14日	Ⅲ区、近世・近代土坑群の掘り下げ。
10月24日	Ⅲ区、全景写真および細部写真の撮影。
10月27日	Ⅲ区、実測作業開始。
10月28日	Ⅱ区、人力掘削開始。
10月30日	Ⅲ区、西南隅の基壇断割で地山を確認。
11月5日	Ⅱ区、中近世遺構群の掘削を開始。
11月11日	Ⅱ区、全景写真および細部写真の撮影。
	Ⅲ区、断割部写真撮影。
11月12日	Ⅱ区、実測作業（～11月13日）
11月17日	Ⅳ区、重機掘削。
11月20日	Ⅱ区、方形土坑SK10630の貼床下に土器敷を確認。
11月28日	Ⅱ～Ⅳ区、全景・細部写真撮影。
12月2日	Ⅳ区、実測作業。
12月4日	Ⅱ区、東方に拡張区設ける。
12月18日	Ⅱ区、ハイライターによる全景写真・地上写真撮影。
12月19日	Ⅲ・Ⅳ区、図面作業終了。
2015年	
1月16日	Ⅱ区、図面作業全て終了。砂撤き。撤収。



第1図 発掘調査図位置図 1：2500